第三講　受身形　／　否定形

一　受身形

① 基本…助動詞を使ったもの

見　被　為　所

レV

〈読〉＝
- V（四段・未然形）＋る
- V（四段以外・未然形）＋らル

〈訳〉＝Vされる

（例）見レ用ヰ。〔　　　　　　〕

見レ従ハ。〔　　　　　　〕

問一　「見レ召。」の「見」の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

① 「使」と同じで、「～させる」という意味である。
② 「被」と同じで、「～される」という意味である。
③ 「示」と同じで、「しめす」という意味である。
④ 「現」と同じで、「あらわれる」という意味である。
⑤ 「謁見」の「見」と同じで、「まみえる」という意味である。

問二　「有（たも）ツレ人ヲ者ハ累（わづら）ヒ、<u>見レ有</u>二於人一ニ者ハ憂フ。」の傍線部の読みを送り仮名まで含めてカタカナで答えよ。現代仮名遣いでも構わない。

② 助動詞を使わないもの

(1) **為**二N**所**ㇾV

〈読〉＝NノVスルところトなル

〈訳〉＝NにVされる

(例) 為唐廷ノ文士所推奨。（　　　　　　）（　　　　　　）

(2) V(ラル・ル)二 [于 乎 於] N一　　N＝Vの動作主

〈読〉＝NニV{ル／ラル}

〈訳〉＝NにVされる

③ 本文中の他の箇所において、同一漢字の送り仮名に「る・らル」が付いているときは注意。

問三　「本為㆓鳥所㆑設、今為㆓人所㆑資」の意味として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

① 鷹は、もともと獲物を捕る才能を備えており、今も人のために役立っている。
② 小鳥は、もともと鷹が食料としていたものであるが、今では人が食料としている。
③ 雉（きじ）や兎（うさぎ）は、もともと鷹のために天が授けたものであるが、今は人の食料となっている。
④ 翼や爪は、もともと鷹のために付けられているものなのに、今は人に利用されている。
⑤ 鷹狩りは、もともと鷹の訓練のために始められたものであるが、今では人の娯楽となっている。

問四　「今臣不肖（ニシテ）、棄㆓逐於秦㆒而出（ツ）㆑関（ヲ）。」の「於」と同じ意味の「於」を含む文を次の中から選べ。

注　棄逐…追い出す。

ア　不義而富且貴、於㆑我如㆓浮雲㆒。
イ　曹操比㆓於袁紹㆒、則名微而衆寡。
ウ　労㆑心者治㆑人、労㆑力者治㆓於人㆒。
エ　停㆑車坐愛楓林晩、霜葉紅㆓於二月花㆒。

二 **否定形**（…基本的に直後の語から返る）

A **「単純否定」**

① **不・弗**＝ず／（~**しない**）

【動作】の否定。→直下はV。（＊AやNを否定することもある）

（例）不聴。〔聴かず。〕（聴かない。）

② **無・莫・毋・勿**＝なシ／（~**がない**）

【存在・所有】の否定。→直下はN。

Vの場合は連体形（＋モノ・コト）と読む。

＊「命令（禁止）文」のとき→「**なカレ**」と読む。

（「**勿**」は禁止を表すことが多い。）

（例）無情。〔情け無し。〕（思いやりがない。）

＊ 勿忘。〔忘るる勿かれ。〕（忘れるな。）

③ **非・匪**＝（～ニ）あらズ／（**～ではない**）
【状態・内容】の否定。**↓**直下はN。
Vの場合は連体形（＋モノ・コト）と読む。

（例）非人也。（　　　　　　）（　　　　　　）

問五　「自疑非夢。」の正しい訓読を次の中から選べ。

ア　自（みづか）ら夢を疑ひて非ずとす。
イ　自（みづか）ら夢に非ざるかと疑ふ。
ウ　自（みづか）ら夢を疑ふを非（そし）る。
エ　自（みづか）ら疑ふを非（そし）りて夢みる。

B　「不可能（＝～できない）」の形

① **不可**V＝V〔終止形〕ベカラず（許可）

（例）不可出。（　　　　　　）（　　　　　　）

② **不能**Ｖ＝Ｖ〔連体形〕（コト）あたハず（能力）

（例）不能正スレ君ヲ。〔　　〕〔　　〕

③ **不得**Ｖ＝Ｖ〔連体形〕ヲえず（機会）

（例）不得謂。〔　　〕〔　　〕

注　謂…言。

問六　「不得視」の解釈として最も適切なものを、次の中から選べ。

イ　たちまち消えてしまった。

ロ　見ないわけにはいかなかった。

ハ　見ることができなかった。

問七　「不ルレ能ハレ得ル也。」を現代語訳せよ。

問八　「竟不能帰。」をすべて平仮名で書き下し文にせよ。現代仮名遣いを用いてもよい。

問九　「不レ能三与レ君陥二於難一。」を書き下し文にせよ。

C 「二重否定」⇨ 強い肯定！

① **無不**〜＝〜ざル（ハ）なシ　／（〜しないものはない＝必ず〜する／皆〜する）

② **非不**〜＝〜ざル**ニ**あらズ　／（〜しないのではない＝非常に〜する）

③ **非無**〜＝〜なキ**ニ**あらズ　／（〜がないのではない＝〜がたくさんある／いる）

④ **無非**〜＝〜**ニ**あらザル（ハ）なシ　／（〜ではないものはない＝皆〜だ）

⑤ **不可不**〜＝〜ざルべカラず　／（〜しないわけにはいかない）

（例）　不可不察也。（　　　　　　　　）（　　　　　　　　）

⑥ **不敢不**〜＝〜あへテ〜**ずンバ**アラず

（どうしても〜しないわけにはいかない）

（例）　不敢不尽。（　　　　　　　　）（　　　　　　　　）

注　尽…「尽(つく)す」。

⑦ **未嘗不**〜＝いまダかつテ〜**ずンバ**アラず

（今まで一度も〜しなかったことはない＝いつも必ず〜する）

問十　「未(ダ)(ル二)嘗(テ)不(レ)(ンバアラ)悲(二)(シマ)石荊州之為(レ)(なリヲ)人(ト)也。」を現代語訳せよ。

注　石荊州…人名。

悲…あわれむ。

問十一　「莫二不レ観者一。」を書き下し文にしなさい。

問十二　「人不レ可レ不二自勉一。」を全てひらがなで書き下し文にしなさい。

問十三　「非二以レ無レ人而不一レ芳。」とはどういう意味か。次の中から最も適切なものを一つ選べ。

a　見てくれる人がいてはじめて、芳しい花の存在が知られるわけではない。

b　見てくれる人が現れるかどうかで、花がその香りを変えることはない。

c　見てくれる人がいないからといって、芳しい香りを漂わせないわけではない。

d　人が見てくれることを求めて、芳しい香りを発するわけではない。

Ｄ **「全部否定」と「部分否定」**（右が全部・左が部分）

① 常不～＝つねニ～ず／（いつも～ない）
不常～＝つねニ**ハ**～ず／（いつも～とは限らない）

② 必不～＝かならズ～ず／（必ず～ない）
不必～＝かならズ**シモ**～ず／（必ず～とは限らない）

③ 倶不～＝ともニ～ず／（両方とも～ない）
不倶～＝ともニ**ハ**～ず／（両方ともは～ない）

④ 復不～＝まタ～ず／（今回もまた～ない）
不復～＝まタ～ず／（二度とは～ない）…一度はするが二度としないの意味。

⑤ 盡（尽）不～＝ことごとク～ず／（すべて～ない）
不盡（尽）～＝ことごとク**ハ**～ず／（すべて～とは限らない）

⑥ 甚不～＝はなはダシク～ず／（ひどく～ない）
不甚～＝はなはダシク**ハ**～ず／（それほど～とは限らない）

問十四　「若（もシ）使（ムルモ）レ呪（まじなハ）レ臣（ヲ）、必（ズ）不（ト）レ能（ハ）レ行（フコト）」の解釈として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア　もし胡僧が私に呪術をかけても、かかるとは限らないでしょう。
イ　もし陛下が私に呪術をかけても、かかるとは限らないでしょう。
ウ　もし胡僧が私に呪術をかけても、かからないとは限らないでしょう。
エ　もし胡僧が私に呪術をかけても、絶対にかからないでしょう。

問十五　「未尽了。」を、すべて平仮名で書き下せ。現代仮名遣いでよい。

注　了…サ変動詞。

問十六　「不ニ復解レ樹」を口語訳せよ。

注　解…（樹木の）株を分割する。

Ｅ　「特殊な否定」

①　**未嘗**～＝いまダかつテ～ず／（今まで一度も～ない）

（例）未嘗夜読。〔未だ嘗て夜に読まず。〕（今まで一度も夜中に（書物を）読んだことがない。）

②　**不敢**～＝あヘテ～ず／（決して～ない）

（例）不㆓敢ヘテ知㆒ラ。〔敢へて知らず。〕（決して知らない。）

> ★似ているので要注意！
> ＊　敢不～（乎）＝あヘテ～ざランや
> 　　（どうして～ないことがあろうか、いや～する）

③　**Ａ不可勝Ｂ**＝｛ＡあゲテＢべカラず／ＡＢニたフべカラず｝／（ＡはＢきれないほど多い）

（例）星不レ可㆓勝数㆒。〔　　　　　　　　〕（星は数えきれないほど多い。）

（例）星不レ可レ勝レ数。〔　　　　　　　　〕（星は数えきれないほど多い。）

④ **無Ａ無Ｂ【ＡとＢが対義語】**＝ＡトなクＢトなク／（ＡとＢの区別なく）

＊ＡとＢが対義語ではないとき＝ＡトシテＢなキハなシ／（ＡにはすべてＢがある）

（例）無貴無賤、…〔　　〕（　　）

　　　無人無情。〔　　〕（　　）

⑤ **無Ｎ不Ｖ**＝ＮトシテＶざルハなシ／（ＶしないＮはない＝Ｎなら必ずＶする）

（例）無人不学。〔　　〕（　　）

復習問題　第三講　受身形／否定形

① 「弱キ者ハ被二俘（ふ）略（りやく）セ一…」の傍線部の送り仮名を含めた読み方として、最もふさわしいものを次の中から選べ。

注　俘略…捕え略奪すること。

ア　るは　　イ　しめ　　ウ　ずして　　エ　られ

② 「不レ能下守二此一都一、以二万人一為上レ慮（おもんぱかり）。」の意味として最も適当と思われるものを次の中から選べ。

注　為…「為（な）す」。

ア　この一都の守備を整えられず、万民の苦しみを招いた
イ　この一都を守ることも満足にできず、万民の心配のたねとなった
ウ　この一都を守り、万民のことを思いやることができなかった
エ　この一都を守ることができなければ、万民の信用を失うと考えた

③ 「理無レ不レ死。」とはどういう意味か。最も適当なものを次の中から選べ。

ア　真理は滅びるものではない。　　イ　真理も滅びないものではない。
ウ　道理として死ぬものはいない。　　エ　道理として死なないものはない。
オ　道理なくして死ぬことはできない。

④　「不ルヲ㆑可カラ㆑不ル㆑与ヘ」の解釈として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア　与えないこともないというように
イ　与えないわけにはいかないように
ウ　決して与えてはならないように
エ　全く与えるつもりはないように
オ　与えたくてしかたがないように

⑤　「不㆓復能㆑察㆓天下之言㆒」は、どう読むか。次の中から最も適当なものを一つ選べ。

ア　ふたたびよくてんかのげんをさっせずして
イ　またてんかのげんをさっするあたはずして
ウ　てんかのげんをさっすることまたよくせずして
エ　またよくせずしててんかのげんをさっし
オ　ふたたびあたはずしててんかのげんをさっし

⑥　「其ノ為人、栄(はえ)アリテ㆓於色㆒ニ而敏ナリ㆓於行(おこなひ)㆒ニ。」の傍線部の読み方として最も適当なものを次の中から選べ。

ア　ひとのため　　　　イ　ひとをなすに
ウ　ひととなるに　　　エ　ひとをつくる
オ　ひととなり

【第三講】

一

①〔用ゐらる〕／〔従はる〕

②〔唐廷の文士の推奨する所と為る。〕（唐廷の文士に推奨される。）

二

A　③〔人に非ざるなり。〕（人ではないのである。）

B　①〔出づべからず。〕（出ることができない。）

②〔君を正す能はず。〕（君主を正すことができない。）

③〔謂ふを得ず。〕（言うことができない。）

C　⑤〔察せざるべからざるなり。〕（察しないわけにはいかないのである。）

⑥〔敢へて尽さずんばあらず。〕（尽くさないわけにはいかない。）

E　③〔星勝げて数ふべからず。〕

〔星数ふに勝ふべからず。〕

④〔貴と無く賤と無く、…〕（身分の高い者と低い者の区別なく、…）

〔人として情け無きは無し。〕（人はみんな思いやりがある。）

⑤〔人として学ばざるは無し。〕（人なら必ず学ぶ。）

〔模範解答〕

問一　②

問二　タモタルル

問三　④

問四　ウ

問五　イ

問六　ハ

問七　得ることができないのである

問八　つい〔ひ〕にかえ〔へ〕る（こと）あたわ〔は〕ず

問九　君と難に陥る（こと）能わ〔は〕ず

問十　石荊州の人柄を今まで一度もあわれまなかったことはないのである
（石荊州の人柄をいつも必ずあわれむのである）

問十一　観ざる者莫し

問十二　ひと（は）みず〔づ〕からつとめざるべからず

問十三　c

問十四　エ

問十五　いまだことごとくはりょうせず

問十六　二度とは樹木の株を分割しない

復習問題解答　第三講　受身形／否定形

〈解説〉

① 「**被**」は**受身**の助動詞「**る・らル**」。直前が「せ」で、**a段ではない**ので「**らる**」。選択肢は活用しているが、「らる」と読んでいるものは、エ「られ」のみ。よって、正解はエ。

② 「不能」の下に、動詞は「守」と「為」の二つがある。返り点通りに読むと**二つ目の動詞「為」を読んでから「不能」に返るため**、二つの動作が**両方**ともに「できない」ということ。よって、正解はウ。

③ 「無不」なので、「～（し）ないものはない」。よって、正解はエ。ちなみに「理」は重要単語で「道理」の意味。

④ 「不可不」なので、「～（し）ないわけにはいかない」。よって、正解はイ。

⑤ 「**復**」は「**また**」と読み「**ふたたび**」の意味。イかエに絞る。返り点通りに読むと、次に読むのは「天下～」となる。よって、正解はイ。

⑥ 「為人」は重要単語。「ひととなり」と読み、「人柄」の意味。

〈解答〉

① エ　② ウ　③ エ　④ イ　⑤ イ　⑥ オ